

第54回 埼玉県消費者大会 報告集

2018年10月9日（火）埼玉会館

自ら考え行動する消費者になろう

～誰ひとり取り残さない平和な社会を目指して～

主催者あいさつ 実行委員長 柿沼トミ子さん（埼玉県地域婦人会連合会）



柿沼トミ子実行委員長が「消費者の8つの権利と5つの責任に触れながら、私たちを取り巻く環境がますます厳しくなる中、また成年年齢引き下げなどにより社会的環境が変化する中、『消費者市民社会』の実現に向けて何をすべきかを考え、くらしの中からの声を政策に反映させ、自ら考え行動するだけでなくまわりの人を巻き込みながら、次の世代にバトンを渡せるように、今日の消費者大会でも大いに学んでいきましょう」とよびかけました。

来賓あいさつ 上田清司さん（埼玉県知事）



上田清司埼玉県知事より、「消費者運動があったからこそ、公害や食品偽装、環境問題などさまざまな問題の解決につながってきました。高齢化社会において、長く健康にどう生きるかが問われていますが、そこでの課題は3つの「K」で表され、「金」「健康」「孤独」であります。そして、この「金」「健康」「孤独」をサギが様々な手口でねらってくる時代です。人とのつながりを多くお持ちのみなさん、かしこい消費者になるためだけでなく、かしこい生き方をするためにはどうしたらいいかに対しての力添えをお願いしたいと思います。さらに、埼玉県の消費者運動が前進することを期待しています」とあいさつをいただきました。

開会前団体紹介

開会前に、スライドによる実行委員会団体の活動紹介をおこないました。



基調報告・埼玉県への要請

大会事務局長 岩岡宏保さん
(埼玉県消費者団体連絡会)



岩岡宏保事務局長より「実行委員会で話し合いを重ね、確認した『基調報告』『埼玉県への要請』について報告をおこないました。「消費者の8つの権利と5つの責任」「消費者市民社会」「消費者庁予算の大幅減少」の3点について説明しました。基調を受け、安心してらせる豊かな埼玉県を創り上げたいとの思いから、47項目の要請書を埼玉県に提出することを報告しました。

記念講演

「子どもの貧困の現状と、私たちが考えなければいけないこと」



湯浅誠さん(社会活動家、法政大学教授)に「子どもの貧困の現状と、私たちが考えなければいけないこと」と題してお話いただきました。以下、当日の記念講演の内容を、要約・抜粋したものを掲載します。

子どもの7人にひとりが貧困って？みなさんの実感とあっていますか

まず、現状から共有したいということで、子どもの貧困について、7人にひとりと言われていることは、会場のみなさんの実感とあっているか問いかけられました。7割くらいの方が「そんなにいるかな」と

感じていることは、全国の傾向とほぼ同じです。

子どもの貧困は「見えない」んです。町を眺めてみてもそれとはわからない。その中で明らかに貧困だと目立つ子もいて、それは赤信号ですね。でも、そういう子に対して、「自分にできることはない」と無力感を感じがちなんです。

では黄信号の子はだれ？どこにいるのか。高齢者でいうと、縁のある人のお葬式に出たくても出られない人、子どもでいうとたとえば修学旅行にいけない子どもです。そのこと自体はそれほど問題ではないけれど、修学旅行に行けなかった子は、旅行の思い出も共有できず、疎外感を感じてしまう。孤独になっていき、さらにはいじめのターゲットになっていく。そういう赤信号につながる黄信号の子も含んで7人にひとりが貧困なんだということが言えます。

赤信号になってしまってから対応するのはすごく大変で、黄信号のうちに動かなければいけないんです。

この後、21人の子どもたちの声をスライドで紹介。この高校生たちは「お金」「つながり」「自信」を持っていないために、自己肯定感、自己有用感が持てずにいると話されました。

私たちにできることは何か

あなたの身近にある子ども食堂に行ってみて、一緒に子どもたちとごはんを食べてください。私が行くと、その分必要な子がごはんを食べられない・・・なんて考えずに、とにかく行ってみてください。子どもにとって、いろんな大人と接する機会自体が大切な学びの場なんです。そのことが、子どもたちに生きる力を与えてくれるんです。



食の分科会

「おいしい埼玉！畜産物をめぐる国内外の現状」



助言者 新川俊一さん(独)農畜産業振興機構情報調査部
事例報告 国分唯史さん他、各団体からの産直に関わる活動報告
会場 7B 参加者 78人

「世界の食料事情とわが国～畜産の現状と課題に向けた取組」をテーマに畜産物をめぐるグローバルな視点を盛り込んだ内容でT P Pや自給率、消費の現状などの問題提起されました。県内生産者(国分牧場)からの報告、パルシステム J A女性協の地産地消等の取り組みが報告されました。

埼玉の産直、農民連の酒米、

消費者課題分科会

「成年年齢が引下げになると、何が起きる？」



助言者 保足和之さん(国民生活センター 相談情報部)
事例報告 特に注意が必要な相談事例(埼玉県消費生活コンサルタントの会 消費生活相談員)
会場 3C 参加者 51人

成年年齢が引下げになると、18歳になった途端にマルチ商法やエステサロン、金儲けの情報商材などの勧誘を受けたり、クレジットカード契約を勧められたりする可能性があります。若者の消費者トラブルのキーワードは「スマートフォン、SNS、借金・クレジット契約」。

断る際に「お金がないので」は禁句。ローンを組まされるかも。きっぱりと「契約しません」と伝えることが大切。

《事例報告》架空請求、光回線契約、健康食品のお試しに関するトラブルについて、寸劇を交えて報告いただきました。

社会保障分科会

映画上映 「さとにきたらええやん」



会場 小ホール 参加者 190人

「さと」とよばれるこどもの里は、様々な事情を抱えた20歳までの子が集う大切な居場所。こどもの里の取り組みは、これからの社会を歩む私たちに子どもも大人も安心できる“居場所”とは何か、問いかけています。映画を鑑賞された方からは、「貧困は、社会の実態を理解し、社会のしくみを変えていくことが大切だと感じた」「もっと自分ができる事を考えて、行動していかなくてはと考えさせられました」などの感想が多く寄せられました。

どの感想が多く寄せられました。

環境分科会

「再生可能エネルギーの現状とこれから」



会場 3B 参加者 78人

助言者 大島利明さん(埼玉県環境部エネルギー環境課)
日本でのエネルギー自給率自体7%、埼玉県では4%という現状の中、家庭からのCO₂排出量は増加しており私たちは考えていくべき。埼玉での再生可能エネルギーとしては太陽光が主なものだが、地中熱利用や水素エネルギーなども注目されつつあります。各消費者団体から、資料の紹介も

含めて、環境を守るとりくみや生協の電気小売事業などについて報告され、質疑応答も活発にされ、改めてエネルギーについて、環境について考える機会となりました。

ロビー活動紹介展示

今大会でも、実行委員会団体による日頃の取り組みを紹介するパネル展示を、大ホールロビーにて開催しました。



大会アピール

「自ら考え行動する消費者になろう ～誰ひとり取り残さない平和な社会を目指して～」をスローガンに、第54回埼玉県消費者大会を開催しました。

実行委員会では、国際消費者機構（C I）が1982年に取りまとめた「消費者の8つの権利と5つの責任」、2008年の「国民生活白書」や「消費者行政推進基本計画」の中で謳われている「消費者市民社会」、2015年の国連総会で採択された国連持続可能な開発目標（SDGs）を消費者団体として大切にしていこうことを確認してきました。

誰ひとり取り残さない平和な社会のためには、安定した雇用＝だれもが安心して働き続けられることが前提です。さらにその前提にはだれもが平等に教育を受けられる仕組みづくりが大切と考えます。しかし、国の諸制度は、高度経済成長期とバブル崩壊後の大きな変化に対応しきれていない面もあり、特に若者と高齢者に格差と貧困が広がっています。貧困の連鎖を断ち切ることも求められています。

また、平和でなければ、ふだんの暮らしも消費者の権利も成り立ちません。

一方、地震や豪雨など自然災害が多発しています。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の復興支援なども継続が求められています。

私たちは、「国民主権・平和主義・基本的人権の尊重」を基本とする日本国憲法のもとに暮らし、「消費者の権利」の実現を求めています。

憲法12条「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを確保しなければならない」を實踐し、自ら声を出し、行動していきましょう。

2018年10月9日 第54回埼玉県消費者大会

《主催：第54回埼玉県消費者大会実行委員会 参加24団体》

埼玉県地域婦人会連合会／新日本婦人の会埼玉県本部／埼玉県生活協同組合連合会／埼玉母親大会連絡会／埼玉公団住宅自治会協議会／さいたま市消費者団体連絡会／コーペル／生活協同組合コープみらい／生活協同組合パルシステム埼玉／医療生協さいたま生活協同組合／さいたま住宅生活協同組合／埼玉県労働者共済生活協同組合／JA 埼玉県女性組織協議会／埼玉県農民運動連合会／NPO 法人埼玉消費者被害をなくす会／埼玉県消費生活コンサルタントの会／春日部市くらしの会／加須市くらしの会／久喜市くらしの会／くまがやくらし友の会／志木市くらしの会／白岡市くらしの会／越谷市消費生活研究会／埼玉県西部地区消費者団体活動推進世話人会

事務局 埼玉県消費者団体連絡会